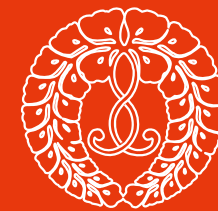


江戸の夜



やくよけ祖師 堀之内 妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀之内 3-48-8

Tel: 03 - 3313 - 6241

Fax: 03 - 3313 - 5007

<http://www.yakuyoke.or.jp>

59



表紙 お え し き ま ん ど う ね く よ う
御会式 万灯練り供養

御会式とは、日蓮大聖人の御命日にあたる10月13日に営まれる法会のことです。

まとい うちわ だいご かね
纏、団扇太鼓、鉦、笛、万灯で構成された講中が賑々しく練り歩く万灯練り供養は、御会式最大の見所の一つです。五重塔を模したものや行灯型など、講中によって万灯の形は様々です。万灯のまわりに飾られた和紙の桜は、日蓮大聖人が御入滅されたときに季節外れの桜が咲いたことに由来します。

纏は、のぼり旗から転じたもので、江戸時代後期に現在の形となり、御会式で振られるようになったのは明治に入ってからと伝えられます。纏を回したり、上下に振ることによって馬簾と呼ばれる房飾りが踊るようになっています。纏の振り方には様々なバリエーションがあり、万灯練り供養を一層盛り上げる、御会式の花形です。

妙法寺では、毎年10月13日の夜に30を越える講中による万灯練り供養が行われ、日蓮大聖人に御報恩の誠が捧げられています。今年は、4年振りに門前の町並を盛大に練り歩く予定です。

宗歌

日蓮聖人最晩年の弘安五年に詠まれた歌です。

「生涯を振り返ると、ほんとうに様々なことがあった。命を失わんとしたこともしばしばであった。しかし、この身延のお山は、釈尊が法華経を説かれた霊鷲山と同じ。木々を渡る風も、川の流れも皆法華経の教え。今こうして身延の山で弟子、信徒に囲まれ、法華経に生かされる日々を送っている私の心は、実に安穩で豊かである。身も心も晴れ渡つてすがすがしい。」との思いがこの歌に込められています。

この歌は弘田龍太郎氏が作曲。現在、日蓮宗の宗歌となっています。

宗歌

日蓮聖人御詠

立ち渡る

身のうき雲もはれぬ

たえぬ御法みのりの鷲ぼれんの山風



”いのちと申す物は
一切の財たからの中に第一の財なり”

(事理供養御書)

私達衆生は、仏子として仏様より過去の世界より未来際まで永遠の命を頂いていると聞いております。また、此の娑婆の世界に於いて両親より生を授かりました。此の世に

人として生命を受ける事は、皆様ご承知のように”爪上の砂”に譬えられ、爪に砂をのせても、そのほとんどがすべり落ち、残る砂はほんの僅か、此の世に数多存在する生物の中で人として生を受けられる事は奇蹟に近い、稀な、貴重な出来事です。ですから私達人間は自らの命を大事とし、他の人々、同じ生きる人々の命も大切に思わねばなりません。地域差はありますが、食料・医療事情の向上により、人々は長生きするようになりました。只、生命とは”かしこきもはかなきも老いたるも若きも定め無き習い”(妙法厄御前御返事)と言うもので、人々が健康で幸福に過ごす事を喜び、自分も今生きている事に感謝の気持ちを持つ事が大切です。

先の太平洋戦争で日本は敗戦国となり、七十八年の歳月が流れました。戦争末期には学徒出陣で多くの若者が、沖縄では直接の戦があり、民間人を含む多くの命が奪われ、広島・長崎では人類史上初めて原子爆弾が使用され、夥しい数の人々が戦争犠牲となりました。国は焼土と化し、国民は苦しみ、戦争で得たものは無く、多くを失い、その代償はあまりにも大きなものだつたと思います。

戦後日本では、同じ過ちを繰り返さぬ事を誓い、国の復興に努めて来りました。

そうした間にも、他国では戦争・侵略・圧政・差別・貧困・飢餓の問題は絶える事無く、二十一世紀になれば成熟した世界に向かい歩いてゆくと言う期待感を持っていましたが、子供の身勝手・我が儘・無い物強請りねだ・嫌がらせ・苛められっ子が苛めっ子に、の様な事を、真しまことやかな理由をつけ筋を通そうとする姿ばかりが目につく世界の様子です。

日本の隣国には、他国となった国に侵略を始め、思わぬ抵抗にいい、手を引けずに核使用をちらつかせ、未だ破壊と殺戮を繰り返している国があります。又、隙あらば武力を使い国家統一を謀ろうと思える国、そして人民の貧困をよそに核ミサイルの作成に余念がない国が存在します。共に人々は国の利益を平等に分け与えられ、幸福を求め思想を掲げた国家だと思っていました。又、侵略覇権主義に強く反対を主張していた国だと記憶しています。今では圧政のもとに独裁に突き進む国としか思えません。人々の平和と幸福を求めた政治を行使すれば、指導者等は尊敬を集め、あらゆる面でその国は豊かになると思います。

国連の事務総長が、今地球は温暖化から沸騰化になっていると言う表現をしていました。人類が産み出した科学の急激な発展で人々に幸福・利便を齎^{もたら}してくれた数々が自然界を通して仇となって戻されて来てしまっているようです。氷河が溶けだし、土砂災害が起きたニュース報道がありました。日本に於いても毎年、異常気象を感じ、大きな自然災害が幾度となく発生しています。日本の原子力発電所は絶対に安全だと言われていました。それが地震・津波の連鎖により、その神話は一気に崩れさりました。世の中、予測出来ない事は数々あります。想定外で済ませられぬ事が起きたらどうしたらよいでしょう。今、破壊・殺戮・無駄な殺人兵器の使用・製造・研究を取りやめ、平和利用に向けたら、どんなに人類の為になるかと思えます。前時代的な国家の利潤追求を改め、地球で生きてゆくため、各国が共存してゆく道を求めてゆく時代にならねばと考えます。気候変動対策と言うものは長い時間を必要としますので早急に措置を講ずることが大切かと思えます。この儘自然界に外方^{そっぽ}を向かればと考えますと恐ろしい気持ちになります。戦争のような争いで犠牲者など出してはいけませんし、人類が齎^{もたら}したと思える自然災害も食い止めねばなりません。これは未来・将来の大切な命を確り^{しつこ}と守ることだと思えます。

日蓮聖人の手紙

(三十七)

妙揚寺住職

立正大学名誉教授
東京立正短期大学名誉教授

北川 前肇

「鷲目十連・かわのり二帖・しゃうかう(薑)二十束給ひ候ひ了んぬ。

かまくらにてかりそめの御事とこそをもひまいらせ候ひしに、をもひ
わすれさせ給はざりける事、申すばかりなし。こうへのどの(故上野殿)
だにもとせしかば、つねに申しうけ給はりなんと、なげきをもひ候
ひつるに、をんかたみに御身をわか(蒼くしてとどめをかけけるか。すがた
のたがわせ給はぬに、御心さえにられける事いづばかりなし。法華経に
て仏にならせ給ひて候とつけ給はりて、御はかにまいりて候ひしなり。
又この御心ざし申すばかりなし。今年のけから(飢渴)に、はじめたる山中
に、木のもとに、このはうらしきたるやうなるすみか、をもひやらせ給へ。
このほどよみ候御経の一分をことの(故殿)へ廻向しまいらせ候。あわれ
人はよき子はもつべかりけるものかなと、なみだかきあえずこそ候へ。」

訳

「錢十束(十貫文)、川のり二帖、生姜二十束、ありがたく拜受いたしました。

私(日蓮)が鎌倉において布教活動に当たっておりましたとき、あなた方(南条氏)との出会いは、一時的なものと思っておりましたのに、お忘れにならずに、御供養の品々をお届けくださるおこころざしに、感謝のこともありません。父上の故南条兵衛七郎殿がご存命であれば、仏教の教えなどをお伝えし、また交流をもつことができるのに、と嘆いておりました。しかし、父上はかたみとして貴殿(南条時光)を、若き頃にお残しくださつたのでしょうか。あなたは、父上の容姿にそっくりであるばかりか、お心もちまで似ていられることを、とてもうれしく思います。父上は、法華経の信仰をもとに、安らかに臨終を迎えられたとお知らせに、十年ほど前に、駿河国富士郡上野郷まで出向いて墓参した次第です。

ところで、このたびの種々のお心ざしに、お礼のこともありません。今年(文永十一年)の農作物の不作(飢饉)の折、はじめて経験する山中生活は、大樹の根もとに木の葉をしきつめたような質素な草庵(十間四面の庵)をご想像ください。

この草庵にて読誦しています法華経の功德の一分を、亡き父上の精霊にささげました。ああ、人はよき子どもをもつべきだと思われ、感涙があふれて参ります。」

(文永十一(一二七四)年七月二十六日・『上野殿御返事』・昭和定本八一九頁)

解説

佐渡流罪がゆるされた五十三歳の聖人は、鎌倉へお帰りになり、ふたたび文永十一年五月十二日に鎌倉を發つて、信徒の波木井実長の招きで身延の地(山梨県)へ向かわれました。そして、翌六月には十間四面の草庵が完成しました。聖人は、弘安五(一二八二年)九月に、身延山を去られるまで、九箇年間の歲月を送られることとなります。

ところで、身延に到着された二ヶ月後、若き武者である信徒の南条時光から種々の供養物が届けられました。聖人が出会われた十年前の時光は、八歳の少年でしたが、いまは父に似て見事な青年となっていたのです。この礼状は、二紙からなる真蹟で、現在茨城県久昌寺に護持されています。

日蓮宗の寺院は、全国に約五千ヶ寺あります。その中でも、特に縁の深い寺院のつながりを「法縁」と呼んでいます。ここでは、堀之内妙法寺を中心とする「堀之内法縁」に属する寺院を紹介していきます。

興栄山 朗生寺



住職 長谷川 雄一
はせがわ ゆういち

当山は千葉県ちやうけんの北東部に位置する、自然豊かな風景に囲まれる匝瑳市そうさしにあります。市の中心部は歴史ある街並み、北部には里山がひろがり、本宗の教育機関であった飯高檀林飯高寺があります。南部は九十九里浜に面しており、当山は海岸線より一・五キロの平坦な地形に位置します。

山号を「興栄山こうえいざん」寺号を「朗生寺ろうしやうじ」と称します。

ます。

宗祖直弟子六老僧 師孝第一 大国阿闍梨日朗上人ご誕生の地頭彰のため名付けられました。

日朗さまは、寛元三年（一二四五）四月八日に野手の地頭であった印東有国いんとうありくに氏を父に、母は後に出家した妙朗法尼みょうろうほうにのもと誕生しました。

幼名は吉祥磨きしやうまわらと名づけられました。今から約七八〇年前に誕生されました。当時の産湯の井戸があります。

日朗上人は、十歳の時建長六年（一二五四）にお弟子とな



◀ 日朗上人座像



▲ 本堂

り、以後二十九年間、つねに日蓮聖人のおそばを離れずに、生涯日蓮聖人のお世話をし、給仕第一といわれています。当山では親しみをこめ、日朗さまと呼んでいます。

元享二年（一三三二）一月二十一日、日朗さま三回忌の時、日像上人、日輪上人、お弟子たちにより、功績をたたえ、後の世に伝えるため、顕彰の石碑を建立された事が寺の始まりです。暦応年間（一三四〇年頃）に日輪上人、大覚大僧正によりお堂が建立。後火災で焼失、天文年間（一五五〇年頃）池上十二世日愷上人により再建され、正式に興栄山朗生寺と名付けられました。慶長十二年（一六〇七）法難に遭い再度お堂が消失しました。その後長く布教できずにいました。

享保八年（一七二三）、この地の地頭、瀬名源五郎一明氏は、ご誕生顕彰の石碑が埋没しているという不思議な夢を見て、その場所

法難に遭いお堂が消滅し明治に至ります。

その間、地元の方たちは「日朗さま」と親しみを込め、何かあればこの地にお参りをし、願いを聞いてくれると信仰を集め、日朗堂と称し村人たちによりこの地が護持されてきました。

明治に入り中興開山日実上人が当地を参拝、不思議な体験から、当地に残り布教を行い、地元信徒と協力、寺院再建建白書を提出し、建立再興が許されました。明治三

を発掘し、顕彰石碑を発見しました。不思議な体験を、池上本門寺祖師堂再建の為、当时上総・下総地方に勧財布教をしていた日顕上人（後の池上二十五世）に相談、日蓮宗に帰依し、新たに誕生地顕彰の石碑を建立（現存）旧石碑をその下に納め、お寺を整備されました。

しかし真言宗の教線が強い場所に有り、三度目の

十八年、池上六十八世日亀上人は、ご両親追善供養の石碑（現存）を建立しました。

日実上人は、大正元年本堂再建建立（現存）直後にお亡くなりになりました。その後は日朗様顕彰のため歴代上人が法灯を護持、戦後より檀家となる家が現れました。

昭和三十年、当時飯高寺住職日雲上人が代務住職となり法灯を護持、昭和四十四年に日城上人が城下法福寺より入り、昭和五十一年、日朗菩薩誕生七三〇年を記念し本堂屋根銅板葺き替え寺内整備され、昭和六十一年、新潟県本山村田妙法寺に晋山されました。その後を受け平成元年法嗣雄一曰雄が法灯を継承させていただきました。



▲江戸時代に使用されていた縁起版木



▶両親顕彰碑

▶日朗上人顕彰碑

日朗さまの、「実に仏になる道は師に仕うるに過ぎず」の教え、この給仕第一の法華経体験の精神をもとに寺内整備を寺檀一致、昭和六十二年より平成六年までに、水屋改修、位牌堂建設、本堂基礎改修、客殿庫裡新築、山門建立、寺内整備を竣工し、平成七年に日朗さま誕生七五〇年を記念し、妙法寺三十五世日法上人を大導師にお迎えし慶讃法要を執り行いました。

令和に入り宗祖降誕八〇〇年、日朗上人七〇〇遠忌を迎えるにあたり本堂内陣、天井床改修工事、合同、永代供養墓建立、慶讃事業を行い現在に至っております。

お祖師様と私

このコーナーでは、当山とゆかりのある方々をご紹介します。

第三十七回



堀之内若睦會 會長

まつだ ひろし
松田弘一 さん

妙法寺様との出会いは今から四十五年位前だったと思います。まだ自分が幼い頃、三のつくだの縁日によく連れて行ってもらっていました。境内の中や参道には、お祭の屋台が並び、日用品や雑貨、魚屋、食料品、喫茶店…等々、様々な模擬店が出ており、あふれんばかりの人

銚子、水郷佐原、成田、九十九里などどこからでも四十分くらいです。

お近くにお越しの時は是非ご参拝ください。



▲建立された、手前の合同供養墓と奥には永代供養墓

興 栄 山 朗 生 寺

【所在地】 〒289-3181 千葉県匝瑳市野手 1614-2
電話：0479-67-2424

【交通】 ●JR総武本線八日市場駅から
市内循環バス（野田・須賀東循環）乗車
→「御城」バス下車徒歩2分

でにぎわっていて、とても楽しかった事をよく覚えています。そこで参拝の仕方や挨拶、色々な事を今は亡き父に教えてもらったと思います。とても良き思い出です。

やがて月日が経ち、子供の頃にお世話になっていた方々と再会し、今、妙法寺様に関わる様々な行事のお手伝いをさせていただいている事は、やはり何かの縁があるのだと深く思っております。これからも、恩返しのお返しを込めまして、微力ながら地域の皆様のお役に立てればと思っております。妙法寺様を中心に堀ノ内の町が少しでもにぎやかで楽しく、平和な場所でありますように、皆様と協力しながら活動していこうと思っております。どうか、これからもよろしくお願いたします。

堀之内 質問箱

その24

にじゅうさんやどう 「二十三日夜堂」

二十三日夜堂ってなに？

妙法寺の本堂後ろに建つ、二十三日さまをお祀りするお堂です。

二十三日さまにまついておしえて

正しくは「二十三日大月天子」といにじゅうさんやだいがつてんじま

た。現在でも旧暦八月十五日に仲秋の名月を愛でる「十五夜」が有名ですが、その他にも十三夜、十七夜、十九夜、二十三日、二十六夜などの特定の月齢の夜に「講」と呼ばれる仲間が集まり、お供物をお供えして飲食を共にし、無病息災を祈るとい風習が全国各地で行われてきました。なかでも二十三日は歴史が古く、十六世紀に京都の公家社会が始まったとされます。旧暦の二十三日は下弦の月が、真夜中に東の空に昇ります。昔の人々は夜半に神々しい光を放つ美しい半月に特に神秘性を感じていたのでしょう。この日に月待ちすれば願いが叶うとされる「二十三日信仰」が盛んに行われるようになったのです。



す。月天子とは月を神格化したもので、元々はインドのバラモン教の神でしたが、のちに仏教に取り入れられ、仏教の守護神となりました。智慧の光で一切衆生を照らす勢至菩薩せいしぼさうの化身とされています。

日本でも古来、月待ち信仰が行われてきまし

Q いっしょに建てられたの？

明治十一年（一八七八）、第十八世日観上人の代に建立されました。木造骨組の外側に切石を積み上げ、屋根は銅板一文字葺きという、明治初期の建物としてはハイカラな形式を持った主屋部の正面に、木造で一間四方、唐破風形式の向拝が繋がっています。向拝の彫刻には月を象徴する兎をはじめ、龍、波、獅子が配されています。扁額の揮毫は、祖師堂や本堂の扁額も手がけられた身延山第七十四世吉川日鑑上人によるものです。この扁額にも愛くるしくも躍動感溢れる五羽の兎が彫刻されています。それぞれ違った表情で

癒やしを与えてくれます。一方、向拝で真上を見上げると、鏡天井には猛々しくこちらを睨み据える龍の姿図が描かれており、その迫力に圧倒されること間違いなしです。同時期に建造され、国指定重要文化財となった鉄門と同様、明治初期という変革期に山主を務められた日観上人の意気込みが如実に伝わってくるお堂です。



▲向拝の獅子▼



▲向拝の兎▲

天井画▶



▲扁額の兎▶



▲扁額

◀扁額の兎▶



二十三夜堂には、どんなお像がお祀りされているの？

正面には、二十三夜大月天子立像が安置されています。

左側には、十界諸尊像・日蓮大菩薩座像・聖観世音菩薩立像・男神立像・女神乗孤像が安置されています。

二十三夜さまにお詣りするにはどうすればいいの？

毎月二十三日、二十三夜堂が開けられて、堂内で各種祈願が受けられます。とくに財運と良縁成就に靈驗あらたかなことで多くの方に参拝いただいております。また、堂内には白蛇が

なで石▼



這っているような「なで石」が安置されています。このなで石を触ると財運が上がるといわれ、ご利益に与ろうという方のお詣りが絶えません。

十月二十三日には祖師堂西内陣に二十三夜さまの掛け軸をお祀りして大祭が奉行されています。この日も財運や良縁成就を祈る方、ご利益を頂いたことへの御礼を捧げたいという方が多く訪れ、満堂の賑わいとなります。



妙法寺

かわら版

当山の行事やご祈願などを
ご案内するコーナーです。
社会情勢により行事内容が変更になる場合があります

《お花講》ご参加のお願い

宗祖報恩お会式に備え、当山の祖師堂をお飾りするお花造りを致します。このお花講へご参加いただいた皆さまには、お開帳・昼食の用意がございます。ふるってご参加下さい。

■ 十月九日(月) … 九時

○ 参加費 無料



第七百四十二遠忌

◎宗祖 報恩お会式

本年は日蓮大聖人第七百四十二遠忌に当たります。当山では、次の日程にて報恩お会式を奉行いたします。日頃よりご守護頂いている日蓮大聖人に報恩感謝の気持ちを捧げる何よりの機会です。ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ご参詣下さいませようご案内申し上げます。

■十月十二日(木)
お題目道場…十一時・十三時(祖師堂)



お会式の様子
万灯練り供養▼



■十月十三日(金) 宗祖報恩お会式
自我偈読誦会…十時・十三時(祖師堂)
お説教…十二時(本堂)
報恩読誦会…十九時(祖師堂)
万灯練り供養…十九時(荒天中止)

《自我偈読誦会》ご参加のお勧め

○参加費 五千円也

(昼食・お経頂戴・お札代含む)

お自我偈は、法華経の中心となるお経です。お会式の法要に参加し、お自我偈を読誦して日蓮大聖人の御心にふれ、報恩感謝の誠を捧げて下さい。仮名つきのお経本をご用意しております。初めての方も、是非ご参加下さい。

《日蓮大聖人報恩感謝の塔婆》

○報恩感謝塔婆 一本 三千円也

(申込〆切 十月十日迄)

◎二十三夜尊大祭



二十三日の夜、月待ちをすれば願いが叶うとされた「二十三夜信仰」。財運・縁結びを二十三夜様にお願ひする大祭です。



■(日時) 十月二十三日(月)…十三時
■(場所) 祖師堂西内陣

《特別祈願》

(商売繁昌・良縁成就・他)

○祈願料 五千円也

(お札・お守り・絵馬授与)

◎ 千日紅繫和会

妙法寺では境内を開放し、千日紅繫和会主催のイベントが行われております。千日紅を通して、ふれあうことの大切さや、おもてなしの心を育み、子どもから大人までお楽しみいただいております。



■〈千日紅市の予定〉十月二十九日(日)

■〈場所〉妙法寺境内

■〈問い合わせ先〉〇三三三三三三三三三三〇七五(清水屋)

◎ 七五三詣

「やくよけのお祖師さま」の前で、お子様・お孫様の健やかな成長をご祈念する「七五三のお祝い」の御祈願をお受けしております。

○ 祈願料 五千元也

(お守り・お札・千歳飴・他)

◎ 記念写真も進呈します。

◎ お正月壹番開帳

妙法寺独自のお札です。新年最初のお札として元旦午前0時に除厄安全・家内安全等をご祈願して授与いたします。

○ 祈願料 五千元也



◎ 常経施主

一年を通して、毎朝除厄安全・家内安全等やくよけを祈願するものです。お札を授与いたします。

○ 祈願料 壹萬円也



◎ 節分会

年の節目である立春の前日にお経を頂戴し豆まきを行い、厄を除き、幸多き一年を願う行事です。

■〈日時〉二月三日(土)

法要……十四時半
豆まき……十五時頃



■〈場所〉祖師堂

○ 年男男女参加費 参萬円也

(お札・節分枡・節分豆・記念品沢山)



かわら版

にっについてのお問い合わせは、お気軽に寺務所まで。

《電話》03-3333-6241



東京立正中学高等学校 ～ 2023年近況 ～
校長 梅沢辰也

「生命の尊重・慈悲・平和」を教育理念とする本校は、3年間のコロナ禍においても通常登校・部活動・行事を行ってきました。睡眠や食事といった生活のリズムを崩さず、外に出て日光に当たり、友達と勉強や部活動に励むことが最も効果的に免疫力を高めると判断したからです。この成果は十分に発揮されたと自負しています。そして、この間に海外プログラムをスタートさせました。海外大学への進学協定校推薦制度・ニュージーランドチーム留学です。更に今年度はカンボジア研修とオーストラリア研修も復活させました。海外に出て行き、外から見て日本を知ることの必要性を強く感じたからです。合わせて、国内プログラムの充実を図り福島県との協働や北海道・沖縄県との学校間交流も始めることになりました。福島県とは昨年度からのお付き合いですが、今年度は廃棄されるリンゴを「りんご甘酒」にするという探究的授業であり、且つ広報から販売までもっていく事業です。北海道と沖縄県の学校とは、領土問題や歴史について学びつつ未来をディスカッションする「場」を作ることになりました。目まぐるしいスピードで変化している世界情勢を他人事ではなく自分事として捉えることのできる人となってほしいと願っています。

そんな中、卒業生の話題も耳に入ってきています。UCLAからアマゾン本社への採用・箱根駅伝10区の先導・レコード大賞新人賞受賞などには大変驚かされています。また現役では、高校女子バレー部が関東大会出場30回を果たしました。更にU-17サッカー日本代表に選出されアジア大会出場を果たした生徒もいます。それぞれの場所で花を咲かせてほしいです。最後になりますが、今年も本校らしい「本気の体育祭」を完全実施することができました。一人も手を抜かない全力の姿が感動を呼ぶ体育祭は今年も健在でした。

Open Campus

オープンキャンパス 予約制



現代コミュニケーション学科 (共学)

現代コミュニケーション専攻

幼児教育専攻

ビジネスコース/心理コース/観光コース

● Specialオープンキャンパス Rittanフェスティバル

2024年3月20日(水)
 <時間> 10:30~15:30

「体験型プログラムを楽しもう！」

韓国語体験授業、音楽表現体験、ミュージカル俳優によるミニライブ&トークショー、クラブ発表、クラス・ゼミ発表などを行います。

● オープンキャンパス

2023年9月17日(日)
 2023年10月28日(土)
 2023年11月26日(日)
 2023年12月9日(土)
 2024年2月17日(土)
 <時間> 10:30~12:00(午前の部)
 14:00~15:30(午後の部)

「気軽に参加できる！
 キャンパス見学&個別相談」

学生スタッフによるキャンパス見学のあと、疑問や不安を解消するため、授業や入試、学生生活等について教職員がご案内します。



● WEB オープンキャンパス

2023年9月22日(金)
 2023年10月13日(金)
 2023年11月3日(金)
 2023年12月15日(金)
 2024年2月23日(金)
 2024年3月29日(金)
 <時間> 10:30~23:59

「動画でRittanを知ろう！」

各日から3日間限定で、Rittanの先生紹介や入試対策動画などを公開します。

ご予約いただいた方に動画視聴のURLをお知らせいたしますので、ゆっくりご視聴ください。

東京立正短期大学

Tokyo Rissho Junior College

〒166-0013 杉並区堀之内 2-41-15
 TEL 03-3313-5101 FAX 03-5377-7641

URL <http://www.tokyorissho.ac.jp/>



完全中高一貫プログラムのグランドデザインで
 国際社会での活躍を目指した
 真のグローバルリーダーを育てています。

まずは、学校説明会・ホームページへ。

2024年度入学者対象 学校説明会日程

中学校	高等学校
2023年 9月16日(土) — 14:30	2023年 9月 9日(土) — 14:30
9月30日(土) — 13:00☆	10月 1日(日) — 10:00☆
10月28日(土) — 10:00◎	10月14日(土) — 14:30
11月26日(日) — 10:00	10月28日(土) — 14:30◎
12月 9日(土) — 14:30	11月18日(土) — 14:30
2024年 1月13日(土) — 14:30	11月25日(土) — 14:30
	12月 2日(土) — 14:00

※◎は中高同日説明会、☆は紫苑祭(学園祭)を予定しています。

いずれも、会場は本校です。上記日程は変更になる場合がありますので、必ず最新の日程をホームページで事前確認の上、お越し下さい。

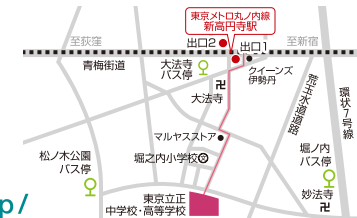


学校法人 堀之内学園

東京立正 中学校 高等学校

〒166-0013 東京都杉並区堀之内 2-41-15
 TEL 03-3312-1111 FAX 03-3312-1620

URL <http://www.tokyorissho.ed.jp/>



仏壇・仏具・位牌
みす平は創業300有余年の神・仏具の専門店
 オーダーメイドでの仏壇製作から、古くなった仏壇・仏像・お位牌などの修理、修復も承ります。



良品安値!

みす平は10年後、20年後の信用を大切にします。

神・仏具のみす平
 株式会社みす平飛天堂
 ☎042-334-9981 FAX 042-334-9982
 〒183-0045 東京都府中市美好町1丁目30番地の13
<http://www.misuhei.co.jp>

墓石・記念碑門塀
 諸石材工事
 有限会社
 マサ

中島正石材

〒一六六・〇〇一三 東京都杉並区堀ノ内二二二一
 TEL 〇三(三三二六) 八八四六代
 FAX 〇三(三三二六) 八八二二

清水屋
 和菓子 御菓子司



〒166-0013 杉並区堀ノ内 3-48-3 ☎03-3311-0725
 【営業時間】和菓子 ◆10時～17時
 手打ち蕎麦 ◆11時～18時(以後はご予約のみ)
 ◆火曜日：11時～15時
 ※いずれも蕎麦がなくなり次第終了
 【定休日】和菓子 ◆火・水曜 ※三のつく日は共に営業
 手打ち蕎麦 ◆水曜 致します。(振替休日有)

ご葬儀をご想儀へ

ムラカミの安心と信頼が
 皆様の想いを
 サポートいたします。

ご家族葬から
 社葬・団体葬までご対応。
 1級葬祭ディレクターが
 責任を持って担当いたします。

365日24時間 自社所有の
 寝台車による速やかなお迎え。
 霊安室も完備しております。

AAA 葬祭業安心度調査 AAA評価 JECIA格付 ★★★★★認定

村上葬祭 株式会社 ムラカミ
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-28-2
<http://www.murakami-sousai.co.jp>
 ご葬儀・ご法要をはじめ、ご不明な点について、
 無料でご相談にお応えいたします。
 24時間・365日ご対応 ☎0120-711-556

編集後記

コロナの規制も緩み、各地の祭りや行事も再開
 となりました。

妙法寺も、幹部会の読経が力強く響き渡り境内
 の活気を感じ、私も出仕した一人として、とても
 嬉しく思いました。この勢いが、報恩感謝のお会式
 へと続きます様に…

教雄記

教誌編集委員

委員長	小田 教雄
委員	嶋田 教豊
	吉田 教理
	山田 教深
	山形 教亨
	宇都宮 教侃
	新井 教慧
	望月 隆行
	望月 教善
	石川 教義
	村越 智仁